

物語の一場面を書きかえて脚本化の手順を知ろう

矢印と吹き出しの指示に従って 印の部分で脚本の形に書きかえてみよう。

脚本「泉のかいじゅう」

「泉のかいじゅう」

「ここまでのお話
きれいな泉のわく深い森に、リスの兄弟が住んでいた。兄のスクイーはすばしっこくていたずら好き。弟のレルは泣き虫だった。
ある日、暴れん坊のクマが隣の山からやってきて、泉を独り占めしてしまう。みんなはこわがって巣に閉じこもってしまった。スクイーはなんとかできないかと、いっしょけんめい考えた。」

最終場面
スクイーたちの勝利
「ここまでのお話を、第三者の視点をナレーターに語らせませ。話し言葉に書きかえていきます。」

きれいな泉のわく深い森に、リスの兄弟が住んでいました。兄のスクイーはすばしっこくていたずら好き。弟のレルは泣き虫でした。ある日、暴れん坊のクマが隣の山からやってきて、泉を独り占めにしてしまいました。みんなはこわがって巣に閉じこもってしまいました。スクイーはなんとかできないかと、いっしょけんめい考えました。

赤い夕日が沈む頃、みんなが隠れている森の中。

「(叫ぶ) そうだ。みんなでおおきなかいじゅうになるんだ！」

スクイーは仲間たちにおおきなかいじゅうのふりをしてクマを驚かす方法を教えようとする。
「そんなのうまくいきっこないよ。」

仲間たちに何を言われてもスクイーはあきらめませんでした。

「みんな、自分の役割をきちんとはたすんだよ。」

森の中でかいじゅうに見えるように練習しているスクイーたち。

「でも近づいたらばれてしまうよ。」
スクイーは元気な声で答える。
「お日様の力を借りるのさ。鳴き声は僕の声をほら穴にひびかせて出すよ。」

赤い夕日が最後の光を森の中に届けたとき、かいじゅうのふりをしたスクイーたちは夕日を背にして立っている。
「ガオーッ！」

木々のすき間から赤い夕日が長い影を作りながら沈むの見える頃、とつぜん、スクイーは叫んだ。
「そうだ。みんなでおおきなかいじゅうになるんだ！」

スクイーは森の仲間たちを集めて、かいじゅうになる方法を教えた。

波線部 を状況の説明するト書きと書かれていない仲間たちのせりふ(付け足し)、スクイーの気持ちを説明するナレーションに書きかえます。

みんなが自分の役割をはたすこと。けつしではなればなれにならないでもちばを守ること。

会話の形で書かれていないスクイーの言葉
葉をせりふとして話し言葉で書きます。

なんとかかいじゅうの姿に見えるようになつたとき、レルが言った。
「でも近づいたらばれてしまうよ。」

「お日様の力を借りるのさ。鳴き声は僕の声をほら穴にひびかせて出すよ。」

赤い夕日が最後の光を森の中に届けたとき、木々の間から、黒々としたおおそろしかいじゅうの影のふり。それは泉のほとりにいたクマに、今にも襲いかかりそうだった。ガオーッ！
おどろいたクマは逃げ出し、二度と戻ってはこなかった。

脚本化の手順

- 1 物語の語り手(視点)を把握する。
- 2 主なせりふを書き出す。
- 3 ト書き(場面や状況の説明)を書き加える。
- 4 描かれていない部分を付け加えるとき、ナレーションとして付け加えたりする。

波線部 を場面の状況や登場人物の気持ちをナレーターに語らせる形で書きかえます。

（ト書き）
スクイー
レル
スクイー
（ト書き）
ナレーター
みんな

スクイー
スクイー

（ト書き）
スクイー

波線部 をト書きで説明します。

（ト書き）
スクイー

（ト書き）
ナレーター
みんな